

THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A.
THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

KOFU21

Chartered 1990
甲府21ワイズメンズクラブ

編集長 野々垣和宏

2024年12月07日(土) 発行



〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目10-7
山梨Y M C A グローバルコミュニティセンター
☎055-235-8543 fax055-235-8553
Mail kofu21@googlegroups.com

国際会長	A・シャナヴァスカーン(インド)	「より良い世界のために、共に」 (Together for a Better World)
アジア太平洋地域会長	ジョウン・ウォン(香港)	「大きなインパクトを起こそう」(Make a Great Impact)
東日本区理事	山田公平 (宇都宮)	「ワイズの方向性を見極める」(Our Future Direction)
あずさ部部长	ピーター・マウントフォード(甲府)	「めあて 望み」
甲府21クラブ会長	興水順雄	「未来のために行動しよう」(Let's act for future!)

甲府21ワイズメンズクラブ
2024年12月会報

今月の強調テーマ

キリスト教会、IBC

【今月の聖句】

「いと高き所には栄光、神にあれ、地には平和、御心にかなう人にあれ。」

ルカによる福音書 2章 14節

担当 野々垣健五

12月 巻頭言



会長 興水 順雄



11月のビッグイベント「山梨YMCA チャリティーバザー」は天候にも恵まれ、多くの来場者で賑わいました。甲府21クラブでは実行幹事の佐藤重良ワイズの指揮のもと、野菜、花、お菓子の福袋、和菓子、古本、ケーキ・手芸品に加えて、今年はカレー、焼きそば、焼き芋、綿菓子、ポップコーン、お米と販売品目を増やし、売り上げを

大幅に伸ばしました。大根は猛暑により生育不良で販売本数が減りましたが、ほとんどの品目が完売となりました。沢山のお米を提供いただいた飯田ワイズ、綿菓子・ポップコーンを提供いただいた清水ワイズ、野菜・白菜・ゆずを提供いただいた境川の沼田さん、沢山のお菓子を提供いただいた渡辺商店さんなど多くの皆様から献品をいただきました。また、大きな働きをしてくれたのがメネットさんです。多くの皆様に感謝します。

恒例のベビーカーコンサートは16日(土)に開催しました。今回はバザーと準備期間が重なりタイトな日程となりましたが、実行幹事の寺田ワイズが手際よく準備を進めていただき、約40人の参加者がコンサートを楽しみました。

「子どもゆめ基金」の「銀河鉄道の森デイキャンプ」は、年内の実施は日程的に厳しいため延期しました。当初2月11日(火・祝)に延期の予定でしたが、その後2月24日(月・祝)に変更となりました。内容も2月は寒さ厳しいので、デイキャンプではなく本の読み聞かせ等に変更する予定です。皆様のご協力をお願いします。

今年も残すところ僅かとなりました。クリスマス、新年を迎えますが、この1年に感謝すると共に皆様にとって来年が良い年となることを祈っています。

12月第一例会プログラム

2024年12月7日(土) 17:00~

会場：山梨YMCA 3階大澤英二記念ホール ベテル

【第I部 礼拝】	司会：荻野 清ワイズ 奏楽：杉田 博子ワイズ
①前奏	
②讃美歌 261番 もろびとこぞりて	
③聖書 ルカ2章 8説~20節	
④説教 「歌うのをやめた天使の話」	穴戸 俊介 牧師(愛宕町教会)
⑤お祈り	
⑥讃美歌 64番 きよしこの夜	
⑦ソプラノ独唱 クリスマスによせて	杉田 博子 (伴奏) 田中 美緒
【第II部 例会】	司会：清水 公一ワイズ
①開会点鐘	興水 順雄会長
②ワイズソング	奏楽：杉田 博子ワイズ
③ワイズの信条	全員
④会長挨拶	興水 順雄会長
⑤入会式	葉袋 EMC 委員長
⑥ゲスト紹介・挨拶	興水 順雄会長
⑦ハッピーバースデー (一言あいさつ)	
<メメント> 葉袋 勝(12/15) 餐場 裕(12/20) 平田耕司(12/24)	
<メネット> 寺田 岸子(12/7)	
⑧諸報告	荻野 清書記
<休憩5分>	
【第III部 祝会】	司会：赤根学ワイズ
①感謝の祈禱	後藤 哲夫ワイズ
②乾杯	水越 正高 次期会長
③食事と歓談のひとつき	
*感謝状の贈呈：沼田三郎様・永子様	
*バザー功労賞	
*演奏：浅川那由多さん(ヴァイオリン) 中込伸行さん(キーボード)&パーカッション)	
<小休止>	
④お楽しみ抽選会	赤根学ワイズ・水越 正高ワイズ
⑤YMCAの歌	
⑦閉会点鐘	興水 順雄会長

11月第1例会報告

書記 荻野 清

日時 2024 年 11 月 19 日 (火) 18:30 ~
会場 山梨 YMCA 3F

大澤英二記念ホール「ベテル」

11 月の第 1 例会は、山梨 YMCA チャリティーバザーの関係で、11 月 19 日 (火) におこなわれた。

興水会長の開会点鐘に始まり、杉田ワイズの奏楽でアジェンダに沿って進行した。ゲスト紹介では、12 月入会予定の武井教子さんが出席し、紹介者の小澤直前会長から紹介をしていただき、ご本人から抱負を語っていただき、後日に入会のためのオリエンテーションを寺田ワイズにお願いをしたところである。

会員卓話では、7 月入会のニューカマー平田耕治ワイズから、幼少期からこれまでの本人プロフィールを熱く語っていただいた。その中でも、直近の山梨 YMCA の水熱工事等の全てを手掛けていただいていたことへの驚きと感謝であった。

諸報告では、山梨 YMCA チャリティーバザーの当クラブ実行委員長の佐藤重良ワイズから次のような報告があった。今回の野菜の生育は天候(雨が極小)に左右され厳しい状況の中、出品の大根等が数分で完売、当クラブ飯田ワイズ提供の“安曇野産コシヒカリ2kg袋入”115 袋が、これも数十分で完売。また、メネットさんの奮闘大による“甲府 21 キッチン”が大盛況であった。清藤シェフのカレー・葉袋 / 水越シェフの焼きそば及び清水ワイズの綿あめ & ポップコーンは、スタートから終了まで、お客様が絶えなかったとのこと。古書&竹細工販売は着実な実績を上げていたことを付け加える。過去最高売上を上げたことに感謝。12 月のクリスマス例会は、ミニコンサートや清水実行委員長のご協力で“ヴァイオリン&キーボード”の演奏があり、オークションに替わる“お楽しみ抽選会”と盛り沢山である。

《12月の誕生者》Happy Birthday!

(メン)
葉袋 勝 (12月15日)
饗場 裕 (12月20日)
平田 耕司 (12月24日)
(メネット)
寺田 岸子 (12月7日)



[敬称略]

会計報告

会計 赤根 学

[会計報告]

2024 年 11 月末現在



項目	ニコニコ	バザー	クリスマス	トータル
目標値	250,000	100,000	50,000	400,000
11月の合計	21,300	550,000	0	571,300
11月末迄累計	75,397	550,000	0	625,397
達成率	30.1%	550.0%	0.0%	156.3%

2024 年 11 月 4 日バザー売上実績

①売上高 734,954 円②原価 166,120 円③利益 568,834 円
○ビックリ福袋 98 袋○鉢植ポインセチア20鉢パンジー50鉢シクラメン20鉢○和菓子 甲斐古餅 100 個餡トナッ100 個○野菜 大根 200 本白菜 20 玉 玉ねぎ 100 個ゆず 300 個○メネットコーナー手芸品 キャロットケーキ100 個 シヤインマスカットカップ 50 個○安曇野新米 115 袋○古本・竹細工○ワイズキッチン カレー 150 食、焼きそば 150 食 焼き芋 40 本 綿菓子 100 本 ポップコーン100 個

今後の予定

12 月 17 日 (火) 第 2 例会 18 時半 ~
2025 年

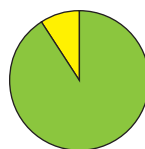
1 月 11 日 (土) 第 1 例会 (山梨 4 クラブ 新年 合同 例会)
会場: 山梨 YMCA 3 階ベテル 担当 やまなみクラブ

1 月 13 日 (月・祝) お正月を遊ぼう
(やまなみクラブ応援) 甲府北口 “よっちゃばれ広場”

1 月 21 日 (火) 第 2 例会 18 時半



《11月例会の出席者》



90.9%

会員数	44名
第一例会出席者	40名
ゲスト参加者	1名
メネット	12名
総出席者数	53名
出席率(会員のみ)	90.9%

第64回チャリティバザー報告

実行幹事 佐藤 重良

<バザーの始まりは 9 月>

甲府 21 のチャリティバザーの準備は 9 月 5 日の大根種蒔きから始まりました。

- 11 月 1 日 キラキラ教室と大根の収穫
- 11 月 2 日 借用のテント 2 張・YMCA のテント 4 張
- 11 月 3 日 大根・ゆず収穫運搬・福袋詰め替え・カレー焼きそばの他下ごしらえ
夕方 VF のテント運搬組立 ・古本・竹細工運搬準備 厨房づくり
- 11 月 4 日 売り場作り・9 時 30 分販売開始・終了 13 時・片付け完了 14 時・解散

<沼田農場さん>

今年の天候不順で野菜が高騰している中で挑戦いたしました。大根の育成から収穫・販売までの経過を説明します。恒例のバザーで販売用の大根・白菜の植え付けは 9 月 5 日でしたが、前日の天気予報は雨でしたので、キラキラ教室との種まきは中止しました。再度種まきは 9 月 10 日に延期しました。しかし種まきをしたその後、雨が 10 日ほど降りませんので大根は発育不良となりました。その後少し降りましたが、大根の発育不順で、販売できる状況には発育しませんでした。こ



のような事が想定されたので 9 月 5 日、沼田さんが「佐藤さん、今年は天候不順なので大根の発育がどうなるかわからない。天候不順に備え予備に大根の種を蒔きましょう。」との事で、約 250 本分の種を撒いておきました。途中沼田さんは発育不順の大根に 水やりを何回もしてくれました。私は途中 2 回間引きと草取りをしました。こんな経過の結果 9 月 5 日の種まきした大根は 200 本、何とか販売できるような商品に育ってくれました。収穫を キラキラの子供たちと一緒に 11 月 1 日に実施しました (写真参照) 大根収穫作業は、大喜びでしてくれました。帰りにお土産に子供の皆さんに 葉っぱ付き大根一本プレゼントをしました

<反省>大根等の野菜の育成は、天候予報を十分予測して、愛情をこめて、種まき・水やり・草取り・間引きをしなければならないことを学びました。また野菜生産の農家の方のご苦勞を強く思い知り、たくさんの勉強をさせていただきました。

<バザー当日>

ダイコン 200 本、売価 1 本 200 円、白菜 20 玉、売価 1 玉 500 円と若干値段が高いのにも関わらず、飛ぶように売れ、開始から 15 分くらいで完売となりました。沼田さんに予備の種まき、水やりをしていただきましたので販売できお客さんに大いに喜ばれました。感謝です。

甲府 21 のみんなで意見出し合い、バザーのコンセプトは「楽しく・華やかに・活力あるバザーにしましょう」と目標を定め、売り場構成しました。初めての試みにも挑戦しました 焼きそば・カレー・ポップコーン・綿菓子はお祭り気分盛り上げに貢献し、新顔にもかかわらず、大変人気



の売り場となりました。安曇野の新米は115袋開始数十分で完売となりました。以前からの売り場「花売り場」は昨年の倍の売り上げ目標を定めました。福袋は高級感のあるおしゃれな包装にプレゼント品完売。風月堂お饅頭完売。ダイコン・白菜・ゆず共（育成苦労しましたが）完売。飛ぶように売れました。またメネットさんの手作りケーキ・子供用品も完売。古本・竹細工も今までにない最高の売れ行きでした。

メンバーに少し高齢化が進んできましたが、大いに頑張ってくださいました。特にメネットさんにはケーキ作り・カレー・焼きそばの下ごしらえ等、大いに頑張ってもらいました。スタッフ不足なのでYMCAのスタッフさん6名にも支援いただき販売促進に貢献していただきました。結果今までの最高売上を達成しました。皆爽やかな汗をかき、来年もっと頑張ろうと皆笑顔でした。（文責 佐藤重良）

第6回ベビーカーコンサート報告

実行幹事 寺田 喜長

日時 2024年11月16日(土) 14:00~
会場 山梨YMCA3階大澤英二記念ホール
「ベテル」

演奏 音楽アンサンブル パルフェ

前回に続き「パルフェ」トリオに演奏を依頼し第6回のコンサートを開催いたしました。

事前準備が不十分の中25組、約50名に来場頂き、泣いて、笑って、踊ってとパルフェの皆さんが来場者と共に楽しく盛り上がるコンサートとしていただきました。子育て中の親子の皆さんに加え、キラキラ教室の子供たち、オーリーブを利用されているおじいちゃん、おばあちゃん等すべての年代の交流の場となりYMCAの掲げるフォーオールに相応しい会で有ったと思います。20名程のクラブの会員の皆様にはクラブ行事の続く中ご協力頂き有難うございました。特にメネットさんにはバザーに続き、協力頂き感謝申し上げます。



内田ワイズの
枯露柿 2024

全国のワイズメンの皆様
今年の冬もお届けします。

チャリティー「枯露柿」キャンペーン



1. 商品名： 甲州市塩山松里地区の「甲州枯露柿」
2. 商品内容：化粧箱（中箱）入り 個数は9～12個入り。* 枯露柿の大きさにより個数が変わります）
代金 4,000円/箱（税込）、送料 別途800円（税込 1箇所3箱まで 沖縄離島除く）
賞味期限 出荷後約40～60日
3. 申込方法：
ウェブサイト～
<https://forms.gle/1eh1yzjgg26WbAUP6>
①上記サイトで、お名前・お届け先等を入力の上、「送信」を押して下さい
②折り返し、注文受け付けメールをお送りします。
4. 代金の支払い：ご注文受付日から2週間以内にお振込をお願い致します。
▼振込先 山梨中央銀行 貢川（くがわ）支店
普通預金 口座番号 426062
口座名義 甲府21ワイズメンズクラブ
5. 申込み締切：2023年12月25日迄

毎年冬の風物詩。枯露柿も3回目を迎えることができました。年内に到着可能です。お早めのお申し越しをお願い致します。

▼担当事務 山本 (090-8562-8168)

「日本での百年」を辿って

カナダ・メソジストの歩み [明治・大正編]
グウェン・R. P. ノルマン 著
後藤哲夫 訳
One Hundred Years In Japan, Part I: 1873-1923

後藤 哲夫

第 11 回 ことば・光・文化

ことば ことば ことば
初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。
(ヨハネによる福音書 1 章 1-2 節)

～本書 295 ページより～

1911 (明治 44) 年にサンビーは聖書とキリスト教書の販売書店を金沢に開店することを提案していたが、1916 年にそれを実現 [広坂通り小売り書店福音館のこと] したのはプライスだった。彼は 3 年後キリスト教書の年間売上が 500 円だったと報告している。また、一日一銭で本を貸し出す貸本屋を開くことを考えていた。マックウィリアムズの時代には売上総額は 3,300 円 (824 ドル) に達した。大量の仕入れ品を保管するスペースがあったら、もっと多くの品物を取り扱うことが可能だったろう。キリスト教絵画も非常に人気があったので在庫切れとなるほど注文が殺到した。日本人夫婦が金沢の店を運営し、書籍 [宗教書] 行商人が近隣の町まで書物売り歩いた。書店はミッションによって助成を受け管理されていた。1920 年代にはキリスト教書以外の書物も置くようになり、給料以外はミッションの助成を受けずに経営できるまでになった。それでも最終的権限はミッションが握っていた。

現代は SNS などによって瞬時に情報を手に入れられる時代である。そしてこれからも利用者がますます増えていくだろう。しかし、SNS のとても及ばないものがある。それは何か？ 絵本である。優れた画家による挿絵と洗練された言葉と深い内容によって、子供たちの心に想像の翼を広げ、夢と希望を与える絵本に接することほど重要なことはない。

戦後『ぐりとぐら』『エルマーの冒険』『おおきななかぶ』『だるまちゃんとてんぐちゃん』『ちいさなうきこちゃん』などで知られる絵本を出版してきたのは「福音館」である。この書店は、1916 年カナダ・メソジスト教会の援助を受けて、P・G・プライス宣教師によって設立された。

1920 年代に入り売上高は当初の約 7 倍にも増えた。昭和 (1926 年) に入り、日本は戦争への道を突き進む。39 年には第 2 次世界大戦が勃発し、宣教師たちは帰国を余儀なくされた。当然のことながら宣教師団の所有する財産 (土地、建物等) をどうするかが大きな問題となった。福音館もその一つだった。宣教師団は、熟慮に熟慮を重ね、これまで書店を経営してきた日本人パートナー、佐藤喜一氏に売却することになった。彼の家庭の生活を考え、公正な値がつけられた。しかし彼はその頭金さえ支払えなかった。自分の貯蓄を書店経営に投じていたからである。彼は宣教師団に申し出た。「ミッションの財産である土地と建物と株と営業権をすべて自分名義の証書として渡してください」と。それは彼を信用するか否かの問題となった。自分たちが帰国した後で返済を出し渋るなどあり得たが、ミッションはその言葉を受け入れた。書店の管理者であったハワード・ノルマンが 1940 年 12 月カナダに帰国する前に、佐藤喜一氏は滞在する彼のもとに約束した現金を持って やって来た。

戦後彼は福音館の本社を東京に移転し、出版業も始めた。娘の夫である松居直氏を編集長とし、後に社長に据えた。絵本や童話などで大いに成功し今日に至っている。

＜閑話休題＞ 1960 年代にハワード・ノルマン夫妻は、長野県塩尻市で伝道を始めた。教会を建てようと、資金の捻出に大変苦労していた。その折、長年の信仰の友であった佐藤喜一氏が駆けつけ、地代の大半を立て替えて協力した。「彼の力添えと祈りがどんなに励みとなったか忘れられない」と教会員は述べている。東京にあって、「いつも塩尻アイオナ教会のことは念頭を離れない」とも彼は語ったという。1963 年塩尻アイオナ教会創立。69 年塩尻めぐみ幼稚園開園。開園記念講演は、福音館社長松居直であった。冒頭のヨハネ福音書は、松井氏が大学の礼拝で出逢った言葉だという。彼は「言

葉こそ人を生かす光」だと悟ったと述べている。それはネットなどというツールでは獲得できない、まさに文化なのである。

< 付記 >

松居 直 2022 年 11 月 2 日 召天 (96 歳)

中川 李枝子 2024 年 10 月 14 日 召天 (89 歳)

「いやいやえん」「ぐりとぐら」などで知られる児童文学作家)



ブリテン委員長 野々垣和宏です。

私には姉がいます。小さい頃に、母が読んでくれた絵本を姉が覚えて、それを私に読み聞かせしてくれたことを思い出しました。それはまさしく「ぐりとぐら」であり、「おおきななぶ」であり、そして少し変わったところでは、「しょうぼうじどうしゃじふた」、だったのです。

松居さんについては、こんなエピソードが福音館の Web サイトに掲載されていました。

▽松居が、絵本作りにおいて従来の枠組みに囚われなかったのは、作家の選び方だけではありませんでした。子どもが心から楽しいと思える絵本を、もっとも適した形で届けるために、当時としては珍しい横長の判型、さらに横書きの絵本を世に送り出します。▽1961 年に翻訳で『100 まんびきのねこ』を刊行した際、こんな横長の本は本箱に入らないという書店や図書館からの指摘に対して松居は「本箱があつて本があるんじゃないやありません、本があつて本箱があるんですから、本箱の方を変えてください」と答えたといいます。同じ年、「こどものとも」でも、日本の創作作品としては初となる横判・横書きの絵本『とらっくとらっくとらっく』を世に送り出します。▽松居は、批判やリスクを恐れることなく、実際に形にして届けることで絵本の可能性を広げ、児童文学の世界をより豊かにしていきました。

自分への戒めとしてこのエピソードを読みました。自分は凝り固まっていないか。もう一度絵本を開いてみたい、と思いましたが、はて、どこにしまい込んだものなのか。

新規連載「私の戦争体験」 2026 年 1 月号より

来年 1 月から、鎌田 巖ワイズによる「私の戦争体験」の寄稿を連載させていただきます。今だからこそ、考えたい私たちの在り方。

昭和 20 年に国民学校に入学した鎌田少年は何を見たのか。

甲府空襲は昭和 20 年 7 月 6 日。

午後 11 時頃から甲府の夜空は、照明弾とそれに続く焼夷弾。

家族 4 人で逃げた愛宕山から見えた、戦火の甲府市内。

他人事(ひとごと)ではなく、自分のよく知っている人が伝えてくれることで、自分事になる。ブリテン 2025 年 1 月号から連載がスタートします。

紛争、戦争、内戦。紛争とはあらゆる争い事を全般的に指す言葉で、子ども同士のケンカも紛争の一つです。武力紛争は文字通り武力を伴う紛争であり、スウェーデンのウプサラ大学では、年間 25 人以上の死者が出た紛争を武力紛争としています。そしてこの武力紛争は、「国家間紛争」と「非国家間紛争」に分けられ、この国家間紛争は「戦争」と呼ばれるものです。

いろいろ調べてみると、紛争が起こる原因は、

- ① 宗教上の争い
- ② 土地や資源の奪い合い
- ③ 権力者の利害関係
- ④ 文化や民族性の差異
- ⑤ 政治的信条の差異
- ⑥ 差別

といったものが、いくつも絡み合っている、ということなのです。

▽ブリテン委員会では、鎌田ワイズへの質問を募集いたします。戦争に関係する事について、鎌田ワイズはどのようにお考えですか?というスタイルでどうぞ。

ブリテン委員長まで。

✉ gorokoji6431@yahoo.co.jp

ペンリレー

アドベントを迎えて

古屋 秀樹

21 ワイズの皆さん、メリークリスマス。止むを得ない事情とはいえクリスマス例会の欠席を残念に思います。今年のアドベントを私は例年より少し暗い気持ちで迎えています。元旦の能登半島地震と能登豪雨災害の二重苦、止まないガザの殺戮とウクライナ戦争、総選挙を経た国内政治の不安定化、そして大統領選の勝利により犯罪者を免れたトランプ氏の前代未聞の再登場等、今年は暗いニュースの多い先行き不安を禁じ得ない1年だったからです。地震は否応ない自然の力ですが、世界中で頻発する自然災害は人間による自然破壊が原因であり、ガザとウクライナの殺戮侵略こそは、国家、民族、宗教、富の偏在等の対立による罪深く愚かな人間の所業です。そして情報技術の発達により、客観的かつ公平公正な情報伝達に代わって、フェイクを交えた受け手に都合のよい偏った情報伝達と入手が当たり前となったことから、分断と対立が拡大する社会、加えて社会秩序に不可欠な法の支配と倫理や規範も蔑ろにされる時代が到来しているように思えます。ところで、自然災害は別ですが、他は、宗教、特にキリスト教が関わっていることは皮肉なことです。ユダヤ教のイスラエルとイスラム教のヒズボラの争いの地は、3大一神教、ユダヤ、キリスト、イスラムの聖地です。また、ロシアの侵略をロシア正教会は後押しし、不安定な日本政府の石破首相はキリスト教徒です。更には、米国で力を持つプロテスタント保守系の福音派が何の疑いもなくトランプを当選させました。驚くこと嘆かわしいことばかりで暗い時代が始まっていると思えてなりません。しかし、よくよく考えてみると、二千年前のローマ支配下の属国ユダヤも暗い世界であったことでしょう。そこに希望の光、救いのしるしとしてキリストが与えられたのがクリスマスです。それから二千年、長い歴史の中でこれまでも今年以上に暗く厳しい年、厳しい時代はいくらでもあったことは間違いないでしょう。このように考えれば暗い気持ち、絶望的になる必要はないのだと考え直すことにしました。現実がどうであれ、二千年前にすでに希望の光、救いが与えられていることを、あらためてクリスマスで確認し、あるべき思い、為すべきことを考えたいと思います。そういえば、元祖ワイズメンは聖書に登場する「東方の博士たち」だったことを思い出しました。



◆YMCA便り◆

「ユースボランティア+シニアボランティア」

総主事 中田 純子

先日、石和温泉で開催されたあずさ部部大会に参加し、改めて若者たちの可能性と世代を超えた交流の重要性を実感しました。甲府ワイズメンズクラブのご配慮により、ユース報告や交流の時間が設けられ、若者一人ひとりが輝ける場が提供されたことに、深く感謝いたします。この大会でユースたちが注目を集め山梨 YMCA の「銀河鉄道の森」プロジェクトについて、皆様にご紹介したいと思います。このプロジェクトは、韮崎市中田に位置し、中央本線が近くを走る立地から、夜の電車が銀河鉄道のように見えることが名前の由来となっています。「銀河鉄道の森」は、単なる自然体験の場ではありません。ここでは、山里再生と若者のエンパワーメントを融合させた革新的な取り組みが行われています。ユースリーダーを中心としたボランティアたちが、手つかずの山里を整備し、遊歩道づくりや森の手入れを行っています。この活動を通じて、若者たちは自然との共生や持続可能な開発について、体験を通じて学んでいます。毎月1回の定期活動では、ワイズメンズクラブの方々による温かい食事の提供があります。これは単なる食事提供以上の意味を持ち、若者たちの心と身体を支え、世代を超えた貴重な交流の場となっています。食事を囲みながら、若者たちとワイズメンの方々語り合う姿は、まさに東日本区ワイズメンズクラブのユースエンパワーメントの理念を体現しているといえます。ここでは食を通じて多様な背景を持つ人々が集い、自己表現や交流ができる場所として、世代を超えた学びの場となることを期待しています。山梨 YMCA は、「みつかる。つながる。よくなっていく。」のスローガンのもと、これからも地域のニーズに応える活動を展開してまいります。「銀河鉄道の森」プロジェクトを通じて、若者たちの成長と地域の発展に貢献し、多くの人々に愛される場所として育てていきたいと思ひます。皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。共に手を取り合い、若者たちの力を活かした地域再生の新たな形を築いていきましょう。